

〔私の生涯学習〕

「カムサハムニダ!!」

川上 妙子

（平成21年度公開講座受講生）

「今年の長岡大学の公開講座はなんだろうな？」と心待ちにしていたところ、権 五景先生による“韓国へ行ってみよう”が開講されることを知り、すぐに申し込みをしました。昨年“海外旅行に行ってみよう”という伊吹先生の講座を受講してから初めての海外旅行を経験することができ、その楽しみを知ってしまったからです。「受講して出かける」ことが旅を楽しくより意義深いものにすることを実感していましたから、今年も期待を持って受講しました。

「韓国に1週間も何をしてくるのですかぁ？」と化粧品販売のお姉さんから質問されました。

「旅行会社のツアーでは行けない所にも行くがあて！」

「ふうーん・・・」

11人で6泊7日（平成21年8月30日～9月5日）の韓国の旅にいざ出発！

韓国旅行といえば最近では2～3泊が一般的らしく、「1週間のガイドを務めるのは初めてですね」と現地ガイドの「金 娟壽さん」も少しびっくりの様子。

今回の旅で一番印象深かった「安東市・大邱市」での思い出を記してみます。まず安東市ですが、ソウルから車で3時間40分位に位置する権先生の故郷でした。出発前の説明は「なーんにもない所で、宿泊する所もどうなっているかわからない・・・」ということでした。詳しい説明はなく謎に包まれたまま不安を抱きましたが、反面、期待が深まっていました。2日目の宿泊地に向かって車は真っ暗な細い道をどんどん山奥に入っていきます。そこは近年ようやく電気が入ったとの説明が先生からありました。到着したのは21時頃だったと思います。宿のご主人であり、詩人である「金 源吉さん」に出迎えていただきホッとしました。手作りの飲み物や持参した果物を食べながら作品の詩集を鑑賞させていただき忘れられない思い出になりました。韓国語や英語や日本語での朗読が続きます。私は「別離の後に」という詩を指名され緊張をおぼえながらゆっくりと声を発しました。その内容は北と南、行き来できないことを歌った悲しいものでした。外は真っ暗で夜空に満月が光り、ただ聞こえるのはココロの音色だけでした。夜風で少し冷えた身体に、寝室のオンドルのぬくもりがやさしく感じられました。

翌朝目覚めてびっくりしたのは裏山から眺める伝統的な韓国家屋の全貌でした。前方下方に静かに川が流れ、後方左右は山におおわれており、一面に朝靄に包まれた風景はとても幻想的でした。朝食を知らせる鐘の音と澄んだ空気が身体を通り抜けるような気がしました。夜遅くに訪れ、朝の感激に出くわすことは、きっと権先生のステキな計らいだったのでしょか？

先生の故郷は風光明媚で懐かしさがこみあげてくるようなところでした。ご実家は立派な伝統韓国家屋でした。みんなで記念撮影、「ハイ！チーズ！」

安東市内の「青松」では、先生の従兄のお兄さんが重要無形文化財に認定された和紙作りの職人さんであり、工房見学をさせていただきました。いただいた貴重な和紙の活用法について夢を膨らませているところです。

安東では他に「陶山書院」を訪れました。この書院は朱子学の研究と両班の弟子育成のために建てられたとのこと・・・眺めの良い高台では涼風が気持ち良く思わず深呼吸！また672年に創建された最も古い木造の「鳳停寺」からの風景に心洗われ空を舞う心地でした。「河回村」は朝鮮王朝時代の伝統文化、特に両班文化を今も守り続ける地方であり、人気俳優の「リュ・シウォン」の生家や、川の辺りでは韓国ドラマの「ファン・ジニ」のロケ地になった場所でもありました。

安東市から大邱市へ移動し、漢方医として開業されている友人の雀先生にはほぼ全員が脈を診ていただいて、症状に応じた鍼、灸、温熱療法を受けました。身も心も癒されたのでした。

安東市・青松・大邱市の他にも世界遺産の「水原華城」「昌徳宮」「宗廟」の目を見張る歴史ある建造物を見学しながら朝鮮王朝時代に暫しタイムスリップ。

韓国の旅で緊張したのはやはり「板門店共同警備区域」でした。ソウル市からバスで1時間くらいに位置し、1953年に休戦協定が調印された場所であり、青空を背景に絡み合う鉄柵線が悲しく目に映りました。離散家族が1千万人という数値に驚愕するとともに大変心が痛みました。「鉄柵線など取っ払ってください！平和を！！」と大声で叫びたい心境でした。

さてソウルの繁華街の明洞や仁寺洞では溢れるほどの観光客で賑わっていました。韓国旅行の楽しみと言えば「食」がありますが先生やガイドさんのご案内により、韓国の食文化に触れることが出来ました。韓定食、肉料理、石焼ビビンバ、スープ、鍋料理、冷麺、お粥、お茶、ビールに焼酎、どぶろくのようなマッコルリ。いろいろな初めての食材や味付けに舌鼓を打ち、朝、昼、夕に必ず白菜キムチをいただけるのには驚き、お店ごとに「お店の味」があって旨み、酸味などを楽しむことが出来ました。中でも私は冷麺にたっぷりキムチをのせて食すのが気に入り、旅行中に4～5杯は食べてきました。「ハマったね」と笑われる始末。長岡に帰ってからも冷麺が恋しくなりません。三食しっかりとモリモリいただいて体重増加が気になりましたがキムチの燃焼作用のせいでしょうか、心配したほどではありませんでした。それとも見学のためにたくさん歩いたからでしょうか？みなさまの体重の変化はいかがだったでしょうか？

ソウルでのお楽しみプランとして標高262mの南山頂上に立つソウルタワーからソウル街を一望。高層ビルが立ち並び、そこからのパノラマはすばらしかったです。夜の眺めもきっと感激でしょうね・・・次回のお楽しみということにしましょう。

芸術文化として、貞洞劇場にて伝統芸術舞台「美笑（ミソ）」を鑑賞しました。伝統楽器の演奏と舞踊は韓国ならではのものでした。あまりの心地よい響きと優雅な舞いにうっとりとしてしまいました。

いままで記したとおり韓国の伝統生活文化体験といろいろな人との出会いの中で韓国人の精神世界や芸術文化までも体験することが出来ました。ガイドの金さんから韓国の教育事情について話していただき、長岡大学での事前授業を復習しながら、さらに理解を深めることが出来ました。

単なるショッピング、観光だけではなく、意義深い7日間の旅が出来たことは権先生の熱意と金ガイドさんの丁寧なわかりやすい説明のおかげだと思っています。そしてご一緒させていただいたみなさまとの「ご縁」に感謝の気持ちでいっぱいです。大変お世話になりました。「カムサハムニダ！！」

最後に有意義な公開講座を企画して下さった長岡大学に心から感謝をいたします。